

神戸中央合唱団 7か月振りの練習再開

団長 北畑 雅敏

10月11日、私が団長を務める神戸中央合唱団が7か月振りに練習再開しました。団員の半数超の集まりでしたが、やはり久しぶりに歌える、また集まれる喜びでみんなの歌う集中力が増しているように思いました。

最初に歌うのは、やはり団歌とも言うべき中村仁策編曲「サリライズ」我が元離れ去り行ける 懐かしき友よ 今再び帰り来たる 我らの元へ



今の状況そのまの歌詞に胸が熱くなります。全日本合唱連盟の飛沫飛散の実験検証結果やスーパーコンピュータ

富岳の計算シミュレーションを踏まえて、合唱団でサーキュレーターを2台購入して、教会の扇風機も2台お借りして30分毎の休憩時間には、全ての窓全開の上これら4台を



前後左右に配置してフル稼働させ、換気排気を5~10分して微細飛沫(エアロゾル)の拡散霧消も試みました。

連盟ガイドラインを参考に団でもガイドラインを作成の上、練習前の事前検温、手指やドアノブなどのアルコール消毒、名簿記入、マスクの装着チェックも怠りなくしました。マスクについては、基本的にどのマスクでもいいことにしていますが、どのマスクも万能ではないので、上記のように換気排気を徹底したいと思います。席は、左右1m特に前後は2mのディスタンスをとりました。

なお、団費は月額ですが、当面不定期になることや来ら

れない団員のことも踏まえて、練習1回毎に実費徴収することにしました。

練習は団内指揮者で開始しました。まずは中村仁策編曲集から「おじいさんの古時計」。この曲は、全国的には「大きな古時計」の題名別歌詞ですが、それより以前からの歌詞と仁策編曲で歌っていた経緯がありオリジナルで歌います。こういう経緯のある曲は難度に関係なく合唱団のアイデンティティとして歌い継いで行きたいと思います。

もう1曲は阪神・淡路大震災犠牲者追悼のために1997年にハビエル・ブストに委嘱した組曲「レクイエム」。この曲も経緯があり、今年が震災から25年にあたり夏の演奏会で演奏するはずだった曲です。

約2時間の練習でしたが、大事に時間を過ごすことができました。この体制で来週も練習する予定です。

練習の最後には別件でこの教会に来られた私たちの指揮者でもある本山秀毅先生も顔を見せられ、温かいメッセージもいただきました。まずは事故なく終了してホッとしております。

◆マスクの効果を評価◆ 合唱活動における飛沫実証実験の速報

全日本合唱連盟と東京都合唱連盟が行った「飛沫実証実験」の一部を発表しました。最終報告は10月半ばになるとのことです。詳細は下記の全日本合唱連盟ホームページをご覧ください。飛沫可視化映像もあります。

<https://jcanet.or.jp/news/COVID-19.htm>

小学生から70代までの男女20名が「大地讃頌」(日本語)と「第九」(ドイツ語)の一部をマスクあり・なしで歌った場合の飛沫の飛距離、飛沫数を測定しました。

ドイツ語は日本語の倍飛沫が飛ぶ

【結果】マスクを着けない日本語(大地讃頌)では、飛沫到達距離は最長61cm。ドイツ語(第九)は日本語よりも到達距離が約2倍長かった。日本語(大地讃頌)の歌唱と朗読では飛沫の飛距離に大きな差は見られなかった。母音唱では勢いのある飛沫は見られなかった。

通常のマスク(不織布、布、ポリエステルいずれも)は飛沫を遮断するが、マウスシールドや下部の開放が広いマスクは、特にドイツ語での飛沫抑制効果に課題を残す。

全日本合唱連盟では、今回の実験結果を踏まえてガイドラインを改定する予定にしています。